

じかいわごう  
持戒和合

きまりを守り、  
集団生活を楽しもう。

平成19年  
5月号



園だより

今月の予定

日	曜	活動内容	保育	体操教室			給食
				長	中	少	
1	火		一日			○	
2	水		一日				
7	月	保護者の会総会準備会	一日				
8	火	保護者の会総会	一日		○		○
9	水		半日				
10	木	年長組ルネサンスプール 年中組お茶のお作法	一日				○
11	金	ピンテープ配布	一日			○	○
14	月	年長お茶のお作法 ピンテープ回収日	一日				
15	火		一日				○
16	水		一日				
17	木	年中組ルネサンスプール	一日				○
18	金		一日	○			○
21	月		一日				
22	火		一日		○		○
23	水	お誕生会	半日				
24	木		一日				○
25	金	避難訓練 おやおや活動	一日	○			○
26	土	ネイチャーランドのQ園隊	休園				
28	月	親子遠足(東京ドイツ村)	一日				
29	火	身長・体重測定	一日		○		○
30	水		一日				○
31	木	(遠足予備日)	一日				

【お茶のおけいこについて】

1カ月に1回、わずか20分ほどですが、坐る・立つ・歩く・おじきするなどの基本的なお作法から始め、日本の伝統文化に触れる体験です。真の国際人を目指して・・・。

年長組の指導は、裏千家池田宗成先生・宮田尚美先生、年中組は宮田尚美先生です。

【ぎょう虫卵検査について】

健康管理の一環としてぎょう虫卵検査を年に一回行っています。検査費用「210円」は、雑費袋に「ぎょう虫卵検査」と書いて、8日(火)までに納入してください。

11日に検査用のピンテープを配布します。方法は、ピンテープの袋に書いてありますが、12日から14日までの間に2回、朝おきたらすぐにテープに付けます。14日朝に園バスまたは、幼稚園事務所に提出してください。

【夏園服について】

衣替えは6月からですが、21日(月)から夏園服・夏帽子で登園しても結構です。今の時期は寒暖の差が大きいときですので、下に着る長袖や半そでTシャツでも調節してください。

【しゅっせきノートについて】

「しゅっせきノート」は、毎月月末に数日間お預かりして、担任が出欠の集計とお子様の様子を簡潔にお知らせします。

幼稚園での様子をお読みいただいたら、しゅっせきノートにはさんである用紙に、お子さんのご家庭での様子を一言ご返信ください。ご返信は、日常の保育に役立たせていただきたいと思ひます。

【通園バスの乗車について】

園バス通園のかたで、バスを待つときは、道路より十分下がっているようにお願いします。すれ違えない狭い道路では、園バスは出来るだけ左に寄ります。また、これからの時期は、子どもたちが慣れ早く乗車したくて競う様子にもなりがちです。「下がって、バスのドアが開くまでは、乗らない」ようお話ください。また、「ご挨拶をきちんとしてから・・・」とか「先頭のお子様は手をつないでいる」なども良い方法ですね。

今月の保育



単元	保育のねらい	主な活動	予想される子どもの状態と対応
年長組	・頼りにされていることに、喜びを感じ、進んでお手伝いをする気持ちをもつ。 ・種まきや苗植えなどを通して、植物の生長や収穫に期待を持つ。	「お家でも、タイムレンジャー」 (母の日)	新学期はじめから、展開してきた「お世話」は、一生懸命しているうちに、上手になってきました。「頼りにされる」「感謝される」のは嬉しいもの。是非、お兄さん、お姉さん扱いしてみましょ。喜び、自信、行動力など多くのことが育ちます。
		「年長ジャックと、豆の木」 (畑で活動)	
年中組	・自分の思いを伝えたり、友だちの思いを知ろうとする。 ・草花や虫などに興味を持ち、大切にします。	「はじめの いっぽ!!」 (プール、お茶のお作法)	初めてのことに、緊張したり、抵抗したりする姿も見られるでしょう。気持ちを、受け止めたり、励ましたりすることで、一歩を踏み出せるもの。「すこしでも、参加できたら誉める!」と、だんだんに慣れて安心し、楽しくなります。
		「年中さん、あつまれ!!」 (学年、みんなでふれ合い遊び)	
年少組	・ふれ合い遊びや、外あそびなど、先生や友だちと関わることを楽しむ。 ・先生と一緒に、園生活に必要なことを、身に付けていく。	「HAPPYママプレゼント大作戦!」	子どもは本来、水、砂、泥などが好きです。外で、仲間と走り回ることが好きです。思いっきりあそび、解放感や仲間との楽しさを味わってもらうために、汚れはOKのご理解を・・・。楽しければ、仲良しになれるのです。
		「ひろげよう! なかよしの輪!」 ～遠足にいこう～	

親子遠足 5月28日(月)

今年は、「東京ドイツ村」へ行きます。詳細は、後日お配りいたします。



食の思い出

私事ですが、先日は母の葬儀に際しお悔やみをいただきありがとうございました。

母は夫を早くに亡くし、以来50年に渡ってお寺を守っていました。ですから、休日に親子で過ごすとか、ゴールデンウィークなんて無縁でした。普段の日も、学校から帰ってきてすぐにすることは、境内のどこかで草取りをしている母の居場所を捜すことでした。

そんな忙しい母でしたが、2～3度だけ、ドーナツ型のパンのようなものを焼いてくれたことがありました。母が作ったパンは、町で売っているジャムパンやあんぱんよりおいしかったものです。その後も、あのパンを食べたいと思ったものの、忙しくしている母にねだることはできませんでした。それである日、自分で作ってみようと思ひました。小学2年のころだと思ひます。作り方は、母のそばで作るのを見ていたのでなんとかなるだろうとフライパンを持ち出しました。卵を割り、砂糖をいれ、そしてこれを入れるのを忘れると膨れないと母が言っていた重曹も入れました。でも、母のようなパンはできませんでした。肝心の小麦粉を入れていなかったのです。そのとき、母の偉大さとパンを作れなかった、そして食べられなかった悔しさとひもじさがこみ上げてきたことを思い出します。

でも、これが私の食に対しての原点であり、ものを作る原点のような気がします。

大学の先輩が、文部科学省の食育調査官といういかめしい仕事をしています。二十数年ぶりでコンタクトを取ることができ、メールでやり取りをしています。そこで、「食物は最高の教材」と教えてくれました。三度三度食べる食べ物、子育てをしていく上で最高の教材だと・・・。

私は、母の作ったパンで、物事にチャレンジすることを知りましたし、作ることの喜びや失敗の悔しさなども学ぶことができたような気がします。まさに母の作ったパンが教材になったのだと思ひます。

今年も、秋になったら、幼稚園の子どもたちにさつまいもご飯を炊いてあげようと思ひています。

